

慶應義塾大学薬学部

資格ガイド 2026

1. 薬剤師
2. 第一種放射線取扱主任者
3. 甲種危険物取扱者
4. 教員免許
5. 登録販売者
6. TOEICテスト (L&R)

<本ガイドにおける資格の表記について>

国家資格その資格と業務内容が、法令に定められているものを国家資格とよぶ。試験実施機関は法令で定められ、国(省庁)のほか、に都道府県(地方公共団体)などの場合もある。

国家資格(業務独占).....その資格をもった者だけが、特定の業務を行うことができる場合、業務独占資格という。

国家資格(必置).....特定の業務・作業を行うために必ず配置されなければならない資格のことをいう。

国家資格(名称独占).....資格取得者のみが、その資格の名称を用いることができる場合、名称独占資格という。

民間資格・検定.....試験実施機関が民間の資格、検定を指す。

慶應義塾大学薬学部

2026年3月

薬剤師

種別	取得方法	受験資格	難易度	合格率
<input checked="" type="checkbox"/> 国家資格（業務独占）	試験 + 登録	6年制 薬学課程 修了	★★★★★	68.9% (2025年3月)
<input type="checkbox"/> 国家資格（必置）				
<input checked="" type="checkbox"/> 国家資格（名称独占）				
<input type="checkbox"/> 民間資格・検定				

資格の概要
<p>医薬品の専門家としての国家資格であり、その責務は薬剤師法に「調剤、医薬品の供給その他薬事衛生を掌ることで公衆衛生の向上及び増進に寄与し、それにより国民の健康な生活を確保すること」と定められている。このため、医薬品に関する知識のみならず、医療人としての倫理観、患者・家族への配慮や他職種との連携に係る態度、コミュニケーションスキルが求められる。薬剤師の活動の場は、医療機関（病院、診療所）、地域の薬局やドラッグストアに加えて、医薬品卸売会社、製薬企業、厚生労働省や都道府県、保健所などの行政機関、大学や研究機関（アカデミア）などがある。2024年末における全国の届出薬剤師数は329,045人であり、そのうち薬局及び病院等医療施設の従事者は79.2%。</p> <p>国家試験を受験するには、薬学部における6年間の課程を修めて卒業することが必須である（本学部では薬学科）。</p> <p>国家試験は7つの分野から計345問が出題され、合格基準は平均点と標準偏差を用いた相対基準によって定められるが、おおよそ65%以上である。基礎科学から最新の医療まで極めて広い知識が求められ、低学年からの学力の積み重ねはもちろん、実務実習における学習成果を活用することも必要である。本学部薬学科を卒業する者は、必ず薬剤師国家試験に合格し、免許を取得した上で各業界で活躍することが期待される。2025年2月に実施された第110回薬剤師国家試験における本学部薬学科の新卒者合格率は89.1%。</p>

試験の概要（特記なき事項はいずれも第110回(2025年2月実施)のもの）	
試験機関	厚生労働省
試験申込日	1月中旬
試験日	2月22、23日（2日間）
合格発表日	3月25日
受験料	6,800円（登録免許税 30,000円）
受験データ（第110回）	受験者 13,310名、合格者 9,164名、合格率 68.9% （うち6年制新卒：受験者 8,061名、合格者 6,849名、合格率 85.0%）
試験地	北海道、宮城県、東京都、石川県、愛知県、大阪府、広島県、徳島県及び福岡県（東京都：立教大学（池袋キャンパス）、東京工科大学（蒲田キャンパス）、実践女子大学（渋谷キャンパス）、武蔵野大学（有明キャンパス）
試験科目	1. 必須問題（90問） 2. 一般問題（薬学理論問題）（105問） 3. 一般問題（薬学実践問題）（150問） 合計 345問 <分野ごとの問題数> 物理・化学・生物 60問、衛生 40問、薬理 40問、薬剤 40問 病態・薬物治療 40問、法規・制度・倫理 30問、実務 95問 客観試験（多肢選択式）、マークシート方式

受験参考書:

- ・薬学生のためのe-ラーニングシステム TOPNetII で過去問題を分野別に閲覧可能。
- ・各種参考書、問題集は、6年生になってから最新版を購入する方がよい。
- ・1年次からの学修の積み重ねが受験対策になるのは言うまでもない。

第一種放射線取扱主任者

種別	取得方法	受験資格	難易度	合格率
<input type="checkbox"/> 国家資格（業務独占）	試験 + 登録（講習）	なし	★★★★☆	26.8% (2025年11月)
<input checked="" type="checkbox"/> 国家資格（必置）				
<input type="checkbox"/> 国家資格（名称独占）				
<input type="checkbox"/> 民間資格・検定				

資格の概要
<p>放射性同位元素等による放射線障害の防止について、各施設で監督を行う「放射線取扱主任者」に選任されるために必要な資格。第一種のほかに下位資格として第二種、第三種があるが、密封されていない放射性同位元素を取り扱う場合や、放射線発生装置を使用する施設では、第一種放射線取扱主任者免状を有する者の中から主任者を選任しなければならない。（例外として、医薬品、医薬部外品、化粧品又は医療機器の製造所において使用する場合に限り、薬剤師免許を有する者を選任することもできる。）</p> <p>医薬系の多くの研究施設では ^3H や ^{14}C などさまざまな放射性核種を含む化合物を密封されていない状態で使用するため、人的要件としてこの免許の保有者が必要であり、本学薬学部も例外ではない。本学部にも第一種放射線取扱主任者免状保有者は複数おり、その中で森脇准教授が主任者として選任されている。今後、大学や研究所での勤務を考えている学生は受験を考えてもよいだろう。</p> <p>免許登録には試験合格に続いて5日間の登録資格講習を受講しなければならないが、講習受講料は17万円と高額である。ただし、試験合格は一生有効であり、企業によっては合格している社員に対して費用企業負担で登録講習を受講させる企業も多い。</p> <p>試験の内容は比較的高度であり、本試験の試験範囲を理解していれば、薬剤師国家試験の放射線に関する内容はおおむね網羅できる。</p>

試験の概要（特記なき事項はいずれも2025年度のもの）	
試験機関	公益財団法人 原子力安全技術センター (http://www.nustec.or.jp)
試験申込日	5月中旬～6月中旬
試験日	8月下旬（平日2日間、2025年度は8月27、28日）
合格発表日	10月上旬
受験料	19,800円
受験データ	受験者 3,074名、合格者 824名、合格率 26.8%
試験地	札幌、東京（大正大学）、名古屋、大阪、福岡
試験科目	1. 放射性同位元素等の規制に関わる法律に関する課目（五肢択一式 30問） 2. 実務に関する課目（多肢択一式 6問） 3. 物理学のうち放射線に関する課目（五肢択一式 30問＋多肢択一式 2問） 4. 化学のうち放射線に関する課目（同上） 5. 生物学のうち放射線に関する課目（同上） いずれもマークシート

受験相談教員：森脇康博 准教授（薬学教育研究センター）

受験参考書：

- ・「放射線取扱主任者試験問題集(第1種)〈2026年版〉」、通商産業研究社
(ISBN: 978-4-86045-157-8)
- ・「放射線概論—第1種放射線取扱主任者試験受験用テキスト」第14版、通商産業研究社
(ISBN: 978-4-86045-153-0)
- ・「10版 放射線取扱の基礎【第1種放射線取扱主任者試験の要点】」、丸善出版
(ISBN: 978-4-89073-290-6)

など

甲種危険物取扱者

種別	取得方法	受験資格	難易度	合格率
<input checked="" type="checkbox"/> 国家資格（業務独占） <input checked="" type="checkbox"/> 国家資格（必置） <input type="checkbox"/> 国家資格（名称独占） <input type="checkbox"/> 民間資格・検定	試験	化学に関する科目 15単位以上の取得	★★★★☆	33.7% (2025年12月)

資格の概要

危険物取扱者は、消防法に基づく危険物の取扱いに係る国家資格である。消防法上の危険物は、火災を発生させる危険性が高い物質、すなわち可燃性物質や燃焼を促進させる物質と定義され、酸化性や引火性などの化学物質の物性によって第1類～第6類に区分される。実習で用いる有機溶媒の多くは第4類に該当する。危険物を一定数量以上貯蔵したり、取り扱ったりする事業所は、危険物取扱者を置かなければならない。危険物取扱者には、取り扱える危険物の種類と業務によって甲種、乙種、丙種があり、甲種危険物取扱者は、すべての危険物の取扱い、定期点検、保安の監督（立ち会い）を行うことができる。

危険物取扱者の試験は都道府県単位で、通年にわたって複数回行われる。出題される内容は、関係法令、化学物質の性質、規制内容、安全管理、保守等に関連する事項である。免許は都道府県知事から交付され、全国で有効である。免許証は運転免許証と同じサイズで、複数の種別の免許を取得すると種別が追加され常に一枚である。

薬学分野では、医薬品の製造、研究などにおいて危険物が汎用される。また大規模な病院でも、アルコール等の危険物を比較的多量に取り扱う。このため、一定数量に満たない場合でも危険物取扱者が管理監督することが望ましく、本学薬学部教員にも甲種危険物取扱者の免許所有者が複数いる。薬学部を卒業すると甲種の受験資格が得られるが、本学薬学部学生は2年春学期までの必修科目すべてを取得できた時点で化学に関する科目の取得単位数が条件を満たすため、在学中でも甲種危険物取扱者試験を受験可能である（単位認定については <https://www.students.keio.ac.jp/sk/pha/class/qualification.html> 参照）。合格率は高くないが、過去問題を入手して対策を行えば、十分に合格をねらうことができる。物理学および化学に関しては薬学部生にとっては平易なレベルであり、将来役立つ資格の一つとして受験することを考えてもよいだろう。

試験の概要（特記なき事項はいずれも2025年のもの）

試験機関	一般財団法人 消防試験研究センター https://www.shoubo-shiken.or.jp
試験申込日	試験日による
試験日	都道府県によって異なる（東京都：2025/5/6、7/12、9/7、11/1、2026/2/8）
合格発表日	試験後、約2週間程度
受験料	7,200円
受験データ	受験者 14,928名、合格者 5,036名、合格率 33.7%
試験地	各都道府県が指定する場所（東京都：中央試験センター；幡ヶ谷）
試験科目	1. 危険物に関する法令（15問） 2. 物理学及び化学（10問） 3. 危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法（20問） 客観試験（五肢択一式）。 試験科目ごとにそれぞれ60%以上の得点率が必要。

受験相談教員：石川さと子 教授（薬学教育研究センター）

受験参考書：

- ・全国危険物安全協会「危険物取扱必携 法令編」「危険物取扱必携 実務編」「危険物取扱者試験例題集」（毎年、販売期間が4月～2月中旬までに限定されている）

教員免許（中学・高校一種）

種 別	取得方法	受験資格	難易度	合格率
<input checked="" type="checkbox"/> 国家資格（業務独占） <input type="checkbox"/> 国家資格（必置） <input type="checkbox"/> 国家資格（名称独占） <input type="checkbox"/> 民間資格・検定	大学卒業 + 単位取得	なし	非該当	非該当

資格の概要
<p>中学校又は高等学校において教員として勤務するためには、原則として教育職員免許を有している必要がある。教育職員免許は、校種や教科による区分のほか、専修（修士相当）、一種（学部卒相当）、二種（短大卒相当、中学校のみ）という区分がある。薬学部は教職課程を設置していないため、在学中に教員免許を取得することは原則としてできない。しかし、大学を卒業することで、教員免許（一種）に必要な要件の一つである学士（学部卒）の学位を取得するため、卒業後、必要な単位を修得することにより教員免許を申請することができる。教員免許の取得には、教科教職に関する科目等で 59 単位以上（教育実習等も含む）を修得する必要がある。加えて、総合教育科目（4 領域 8 単位以上）も修得する必要がある（中学校の場合は介護等体験も必要）。教科教職関係の 59 単位を修得するためには、慶應義塾であれば卒業後に教職課程センターの教職特別課程生などとして在籍して教職の単位を、さらに他学部あるいは他大学などの設置科目の中から教科の単位を修得する必要がある。なお、中学校及び高等学校の「理科」の免許を取得する場合には、教科の単位の一部に、薬学部で取得した単位を充当することができる場合がある（教職課程センターとの相談が必要）。また、総合教育科目についても、在学中に修得したものを充当できる場合がある。</p> <p>したがって、教員免許を取得するためには、在学中のなるべく早い時期に教員免許取得を見据えた学習計画を立て、薬学部の担当教員や教職センターなどと相談し、取得可能な単位を早めに取得する必要がある。さらに、卒業後少なくとも 1 年間は在籍して、教員免許に必要な単位を追加で取得する必要がある。特にカリキュラムに必修科目が多い薬学科の学生は、相応の覚悟が必要となる。</p>

必要科目・最低修得単位数	中学一種	高校一種
教科に関する専門的事項（「理科」の場合）	合計 20 単位以上	
内訳	各 1	
物理学 化学 生物学 地学	各 1	
物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	1	
物理学実験 化学実験 生物学実験 地学実験		いずれか 1
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	8 単位以上	4 単位以上
教育の基礎的理解に関する科目	10 単位以上	10 単位以上
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10 単位以上	8 単位以上
教育実践に関する科目	7 単位以上	5 単位以上
内訳） 教育実習	5	3
教職実践演習	2	2
大学が独自に設定する科目	4 単位以上	12 単位以上
総合教育科目 日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、 データ活用及び人工知能に関する科目または情報機器の操作	各 2 単位以上	
介護等体験	7 日間	—

相 談 教 員： 大谷壽一 教授（医学部 病院薬剤学教室／薬学部 臨床薬学講座）
 鈴木小夜 教授（医療薬学・社会連携センター医療薬学部門）

登録販売者

種別	取得方法	受験資格	難易度	合格率
<input type="checkbox"/> 国家資格（業務独占）	試験 （都道府県 が実施） + 登録	なし	★★★★☆	47.3% （2025年1月）
<input type="checkbox"/> 国家資格（必置）				
<input type="checkbox"/> 国家資格（名称独占）				
<input type="checkbox"/> 民間資格・検定				

資格の概要
<p>処方箋なしで購入できる OTC 医薬品には要指導医薬品と一般用医薬品があり、登録販売者は一般用医薬品のうち第二類および第三類医薬品について販売したり相談を受けたりすることができる。根拠法律は「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（医薬品医療機器等法）」。</p> <p>薬剤師免許がなくとも第二類及び第三類医薬品を販売できるのは登録販売者のみであり、資格取得前の実務経験と取得後の業務経験が過去 5 年以内に通算 2 年以上の者は管理者・管理代行者になることができる。通算 2 年未満の者は研修中とみなされ、薬剤師または管理者等の管理・指導下で業務を行う必要がある。管理者等の条件を満たしているかは名札に明記されなければならない。</p> <p>登録販売者としての資質を確認するための試験は厚生労働省令に従って各都道府県が実施する。試験問題は、各年厚生労働省が定める「試験問題作成に関する手引き」から出題されるが、試験日、受験料などは都道府県によって異なる。受験資格に制限はなく、試験合格後、販売に従事する店舗の所在地の都道府県に販売従事登録申請を行う。なお、試験は全国の都道府県どこでも受験可能であり、合格後の資格も全国で有効である。</p> <p>セルフメディケーションの推進に伴い、ドラッグストアなどにおける一般用医薬品の購入者の増加に伴って薬剤師の負担を軽減するためにも、登録販売者の需要は今後継続すると予測できる。合格率は決して高くないが、これは薬学を専門としない者が受験しているためである。薬学部の学生にとっては「試験問題作成に関する手引き」の内容は、当然ながら日常の学習内容で十分に網羅されている。在学中（2～4 年次）に力試しに受験するのも悪くないだろう。</p>

試験の概要（特記なき事項はいずれも 2025 年度のもの）	
試験機関	都道府県
試験申込日	5 月下旬～9 月下旬（試験日による）
試験日	年 1 回 8 月下旬～12 月上旬（東京都：9/7）
合格発表日	9 月下旬～1 月中旬（東京都：10/17）
受験料	12,800～18,200 円（東京都：13,600 円）
受験データ	受験者 58,996 名、合格者 24,004 名、合格率 40.7% （東京都：受験者 4,186 名、合格者 1,671 名、合格率 39.9%）
試験地	各都道府県
試験科目	1. 医薬品に共通する特性と基本的な知識（20 問） 2. 人体の働きと医薬品（20 問） 3. 主な医薬品とその作用（40 問） 4. 薬事関係法規・制度（20 問） 5. 医薬品の適正使用・安全対策（20 問） 客観試験（多肢選択式）。 各項目 35%以上、かつ全体で 70%以上の得点率が必要。

受験相談教員：石川さと子 教授（薬学教育研究センター）

受験参考書：

- ・厚生労働省「試験問題作成に関する手引き」及び「試験問題作成に関する手引き 例題」
- ・各都道府県の Web サイト：過去問題および解答が掲載されている。

TOEICテスト (L&R)

種 別	取得 方法	受験 資格	難易度	スコア帯別 割合
<input type="checkbox"/> 国家資格 (業務独占)				845 以上: 10.0%
<input type="checkbox"/> 国家資格 (必置)	試験	なし	A (860):★★★★☆	745 以上: 25.2%
<input type="checkbox"/> 国家資格 (名称独占)			B (730):★★★☆☆	695 以上: 34.8%
<input checked="" type="checkbox"/> 民間資格・検定				(2026 年 1 月)

資格の概要
<p>TOEIC とは、Test of English for International Communication の略語で、その名の通り (英語を母語としない者を対象に) 英語コミュニケーションの能力を評価する検定である。米国の ETS (Educational Testing Service) によって開発・制作され、日本では IIBC (国際ビジネスコミュニケーション協会) が実施・運営している。英語の技能は Reading, Writing, Listening, Speaking の 4 技能に分けられるが、TOEIC テストには Listening と Reading の能力を評価する TOEIC L&R と Speaking と Writing の能力を評価する TOEIC S&W がある。単に TOEIC の点数といった場合、前者の点数をさすことが多い。</p> <p>TOEIC L&R スコアは 10 点から 990 点まで 5 点きざみで示され、860 点以上のレベル A は「Non-Native として十分なコミュニケーションができる」レベル、730 点以上のレベル B は「どんな状況でも適切なコミュニケーションがとれる素地を備えている」レベルとされている。TOEIC は、ビジネスなどの実際的な場面における英語の運用力を評価するため、就職等においても英語力の指標として広く用いられている。特に企業への就職を考えている学生は、目標を定めて受験すると良いだろう。</p> <p>本学においては、薬学科 6 年次および大学院生 (薬学) を対象とした海外アドバンスト実習の応募時の必須要件として TOEIC L&R 700 点以上、強い推奨要件として導入講義の時点で 730 点、渡航までに 830 点以上の成績を得ることを定めている (いずれも 2026 年 3 月現在)。また、両学科および大学院生を対象としたアドバンストレギュラトリーサイエンスプログラムについても、参加要件として TOEIC 750 点以上を定めている。これらの海外プログラムへの参加を考えている学生は、4 年次までに 750 点を目指したい。</p>

試験の概要 (特記なき事項はいずれも 2023 年度のもの)	
試験機関	一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 (https://www.iibc-global.org/toEIC/)
試験申込日	おおむね試験の 2 ヶ月前
試験日	年間とおしてほぼ毎月 1 回の午前・午後 (1 日 2 回実施)
発表日	おおむね試験の 1 ヶ月後
受験料	7,810 円
受験データ	受験者年間 約 80 万人
試験地	関東地方では各都県で開催されている
試験科目	1. リスニング (約 45 分間、100 問) 2. リーディング (約 75 分間、100 問) いずれもマークシート式。英文のみ。

受験相談教員: 植村良太郎 准教授 (基礎教育)、漆原尚巳 教授 (医薬品開発規制科学)、
鈴木小夜 教授 (医療薬学・社会連携センター医療薬学部門)

受験参考書:

- ・「公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 12」、国際ビジネスコミュニケーション協会 (ISBN: 978-4-90603-377-5)

など